

2026年6月25日（木）

老球の細道 928

バスケットボールクリニック再開スタート

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

私には残された夢がある。この会津の地からミニ、中学、高校、一般と四つのカテゴリーからそれぞれ県大会優勝、全国大会へ出場するチームを輩出することである。しかも地元出身の選手のみでそれをやり遂げる。過去にはそれを成し遂げられた歴史がある。

ミニにおいては、高田ミニ男子、一箕松長男子、日新男女、そして昨年の磐梯男子。中学においては、喜多方二中男子、若松三中男女、若松一中男子、若松二中男子。高校においては、会津男子、喜多方男子、旧大沼男子、旧若松女子、旧会津女子、若松商業男子。そして最後に一般においては、会津クラブ男子。会津クラブは東北大会優勝の歴史もある。

現在はミニの男子以外低迷が続いているが、過去には以上のような輝かしい歴史を刻んできたのである。その歴史の中で、日本代表選手（故江川嘉孝、新井信二）、Bリーグ選手（上杉翔、川島蓮、高木拓海）、Bリーグコーチ（上杉翔）、Bリーグ審判（芳賀聡）などで、全国的に活躍している人材も輩出している。

わが会津地区はバスケットボール不毛の地にあらず。よその地区からタレント選手を呼んでこなくとも、地産地消で全国レベルの選手、チーム、コーチ、レフリーなど必ず育成できるはずである。そのためには、ミニからの一貫指導をするコーチの育成とコーチ陣の連係、まとめ、学習が大切になると信じている。

私もそのようなコーチングスタッフの一翼を支えられればと思い、退職してから今まで、ミニから高校、大学、そして指導者の育成に取り組んできた。成果はイマイチであるが、これからも依頼があれば協力を惜しみなくしていきたいと思っている。

そんな想いを携えて、いつでも病気からスタンバイできるように準備していたところ、今年度になって通年を通してのクリニック依頼が2件入った。会津クラブ U-15 と坂下ミニバスチームである。坂下ミニバスチームは12年連続のクリニックとなる。前コーチの二瓶誠二氏と現会長の鈴木新氏には感謝、感謝。また会津クラブ GM の渡部大介氏も私のような爺様に生き甲斐の場を与えていただき、これまた感謝、感謝、雨あられである。

早速先週の18日（木）、20日（土）と2チームのクリニックを実施した。病気手術後初のクリニックであったが、選手、保護者、スタッフ達の真剣さに後押しされて、なんとか予定の時間をこなすことができた。二日間共、夜は興奮して眠れなかった。

病気療養中に内村鑑三の『後世への最大遺物』という本を読み、残り少ない人生において、私は後世に何を残すべきかを考えさせられた。内村は次のように書いている。

「われわれに後世に遺すものは何もなくとも、われわれに後世の人にこれぞというて覚えられるべきものはなにもなくとも、アノ人はこの世の中に活きているあいだは真面目なる生涯を送った人であるといわれるだけのことを、後世の人に遺したいと思います」

私も真面目にバスケットを続けなければならない。